

令和8年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	57	学校名	斐太高等学校
------	----	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域に貢献し、社会を牽引する人材を輩出してきた高校として 新たな知識と幅広い教養を主体的に獲得する教育活動を通して 多様な価値観を尊重し、未来の創造に向けて真摯に挑戦するリーダーの育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	豊かな心と主体性を育み、幅広い知識と高い学力を身に付けることで、多様な社会に対応できる創造性豊かな人材を育成する。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたり 探究心を持って自ら学び続け、問題解決や新しい価値の創造に取り組むことができる生徒 ・多様性を尊重し他者と協働することができ、国際社会の持続的発展や平和に貢献することができる生徒 ・地域社会の発展を考え、答えが見えない課題に対しても グローカルな視点からアプローチすることができる生徒 	
	生徒をどう 育てるか 【C P】	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の興味・関心が引き出され、深い学びと進路実現を可能にするバランスの取れたカリキュラムの編成とICTの活用や少人数によるきめ細かな指導 ・地域や社会と連携した探究的な学習や体験活動等を通じて、教科横断的な学び、協働的な学びを推進するとともに柔軟な思考力を醸成 ・生徒を主体として運営される様々な行事を通して、創造的企画運営力やリーダーシップ、チャレンジ精神を育成 	
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲と知的好奇心を備え、向上心を持って学び続けることができる生徒 ・自ら進んで人と関わる中で、他者との対話を大切に自他の個性を認めるなど、仲間と協力して物事に取り組める生徒 ・広く社会に目を向けることができ、地域や世界の課題をジブンゴト（自らの課題）として捉えることができる生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 限られた教育活動の中で、多様な価値観を尊重し、未来の創造に向けて真摯に挑戦するリーダーの育成を、どのように効果的に育成していくか。 ● 進路実現のための学力の向上とともに、他者との関わりに配慮が必要な生徒についても学びやすい学習環境を研究していく必要がある。 ● 他者との関わりに配慮が必要な生徒など支援や、生徒の問題行動に対して、より迅速に組織として対応する必要がある。 ● 地域の課題をテーマとした探究活動は定着してきたが、より深い探究にするためには、データを根拠とした探究活動を文理問わず広める必要がある。 ● 飛騨地域の中学生が減少していく中で、これまで以上に本校の価値を分析し、様々な方法で情報を発信する必要がある。 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の良さが伝わるよう、地域の中学校や地域の住人に働きかける。 ・教職員の業務量管理・健康確保措置を適切に行うとともに、主体的な職員研修、職員交流などを通じて風通しのよい働きやすい職場環境を整える。 	
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的で協働的に深く学び続ける力を育成するため、カリキュラムや年間行事計画の継続的な見直し及びICTなどを活用した授業改善を推進する。 ・高等学校DX加速化推進事業（以下「DXハイスクール事業」）の指定3年目として情報機器等を活用し、データに基づいた考察力を育成する。 	
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりを通してコミュニケーション能力を向上させ、他者の価値観を認めることで思いやりの心を育むとともに、自己の生き方を確立させていく。 ・配慮を要する生徒の早期発見と共通理解に努め、本人や保護者に寄り添って対応する。必要に応じて専門機関と連携して生徒に合った支援を行う。 	
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路実現を可能にするため、外部リソースを活用しつつ、生徒の学力向上のための働きかけや、生徒および保護者への情報発信を実施する。 ・探究的な学びを活かした進路実現など、多様化する進路に対して、幅広い支援を継続する。 	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学校経営	教員の資質・能力の向上につながる主体的な教員研修を実施する。	施策IV-26	教員研修の取組状況と教員の変容				
	職員が働きやすい職場を目指し、労務管理を適切に行い、業務の平準化やDX化、スリム化など職場環境の改善を図る。	施策IV-27	教育環境の改善につながった取組及びその成果				
	生徒が学びやすく、魅力ある学校にするために、校内環境を整備する。	施策IV-20	校内の整備状況及びその後の活用状況				
	本校の魅力が伝わるように、地域の中学校や地域の住民に積極的に情報を発信する。	施策IV-20	情報発信のための取組状況と成果				
学習指導	教育課程表を継続的に見直し、どのような社会にも対応できる基礎学力を育成し、個々の進路実現を可能にするカリキュラムの構築を検討する。	施策II-8	教育課程に関する検討の進捗と成果				
	「教育用生成AIを活用した授業支援事業」に取り組み、個別最適化された学習の研究を実施する。	施策II-9	生成AIを用いた学習の取組状況と生徒の変容				
	配慮や支援が必要な生徒が学習の遅れなどの不安感を抱かないよう、オンライン学習支援を適切に運用する。	施策I-3	オンライン学習支援の実施状況と生徒の変容				
	DXハイスクール事業の取組として、探究活動の中で、文理を問わずデータに基づいた考察力を育成する。	施策II-9	探究活動におけるデータを根拠とした取組状況				
生徒指導	外部機関も活用しながら年間を通じて命の大切さを生徒に発信し、「自分の命は自ら守る」という自助の意識を高める。	施策III-19	交通安全や防災に関する取組状況と生徒の変容				
	情報モラルや闇バイト等について、外部機関を活用して生徒に最新の情報を提供し、主体的にリスク対応ができる力を育成する。	施策II-13	情報の発信状況と、その後の生徒及び保護者の変容				
	配慮や支援が必要な生徒に対し、初期対応を迅速に行うため、生徒の実態を確認するとともに、教員と生徒との関係性を深め、相談しやすい環境を整える。	施策II-13	外部リソースの活用状況と生徒の変容				
	配慮や支援が必要な生徒に対して、関係職員との連携を密にし、迅速に組織で対応する。同時に、外部機関とも連携を密にする。	施策II-13	将来の目標に探究活動が活かされた取組状況				
進路指導	生徒の進路実現を可能にするために、生徒が自己の課題に応じて主体的に学べる場を提供するなどの支援を行う。	施策II-8	進路実現のための支援の取組状況と生徒の変容				
	生徒及び保護者が主体的に進路選択できるように、様々な情報を発信する。	施策II-13	情報の発信状況と、その後の生徒及び保護者の変容				
	外部リソースを有効に活用し、新課程入試に関する情報提供や学力の向上を図る。	施策II-13	外部リソースの活用状況と生徒の変容				
	探究的な学びを活かした進路実現など、多様化する進路に対する支援を継続して実施する。	施策II-13	将来の目標に探究活動が活かされた取組状況				

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和9年 月 日 学校関係者評価 実施日：令和9年 月 日

--	--